

株式会社リアライズコーポレーションによる市長表敬訪問等について

交通局では、本年4月に、株式会社リアライズコーポレーションと、市バス車両のリース契約を締結しました。本件については、同社から、リースによる車両調達を全国のバス事業者に広めることで社会貢献をしたいとの思いの下、公営バス事業者として初の取組となる「セールアンドリースバック方式」を前提として、導入経費が低廉で、かつ、費用負担の平準化も図れる優れた提案を頂き、契約の締結に至ったものです。

この度、同社が門川市長を表敬訪問されますので、下記のとおりお知らせします。

なお、これに併せ、同社からラッピング広告を掲出していただきました市バス車両の披露も行います。

記

1 日時

令和2年7月30日(木) 午後3時～午後3時30分

2 場所

- (1) 表敬訪問 ロームシアター京都第一会議室(3階)
- (2) 車両披露 岡崎公園(岡崎プロムナード)

3 訪問者

いまふく ようすけ 株式会社リアライズコーポレーション代表取締役社長
今福 洋介
とだ ようこ 同 取締役経営企画室室長
戸田 洋子

4 対応者

門川 大作 京都市長
山本 耕治 公営企業管理者交通局長

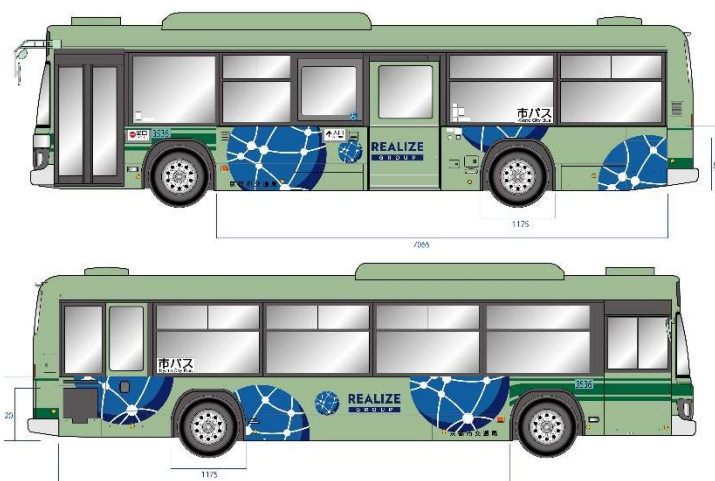
5 訪問目的

リース契約締結の御礼及び
ラッピング広告の掲出報告

6 次第

- (1) あいさつ(今福社長、門川市長)
- (2) 懇談
- (3) 車両披露・写真撮影

※ (1)及び(2)はロームシアター京都第一会議室で、(3)は岡崎公園で行います。



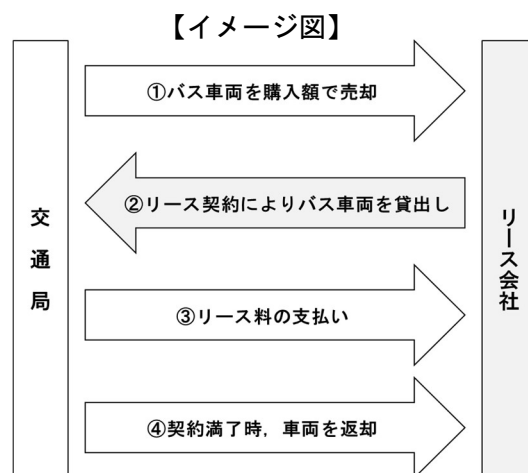
【ラッピング広告イメージ】

＜参考1＞契約に至る経過

- ・ 交通局では、市バス車両を約18年使用していますが、この期間と比較して、借入金の返済期間が5年間と短く、毎年の費用負担が大きくなっています。
- ・ そのため、昨年3月に策定した「京都市交通局市バス・地下鉄事業経営ビジョン」において経営上の課題として掲げ、解決のための手法としてリースの活用を検討することとし、昨年10月に、民間事業者の皆様の知恵を借りるべく「市バス車両のリースによる調達に係る提案」を広く公募しました。
- ・ その際、3者から提案があり、そのうちリアライズ社からは、交通局との取組を契機として、リースによる車両調達を全国のバス事業者に広めることで社会貢献をしたいとの思いの下、「セールアンドリースバック方式」を前提として、導入経費が低廉、かつ交通局の目的である費用負担の平準化も図れる優れた提案を頂きましたので、採用いたしました。
- ・ 本提案に基づき、令和2年4月1日（水）付けで、2台の市バス車両についてリース契約を締結いたしました。

○セールアンドリースバック方式について

当局保有の車両をリアライズ社に売却し、リース料を支払い、当該車両を借り受けるもので、これにより、手元資金を確保したうえで車両を使用できるとともに、車両調達に係る単年度当たりの費用負担を平準化が図れるものです。



＜参考2＞リアライズ社の概要

- ・ 代 表 代表取締役社長 今福 洋介
- ・ 設 立 2005（平成17）年5月
- ・ 資 本 金 1億円
- ・ 本 社 東京都港区六本木6丁目10-1六本木ヒルズ森タワー34階
- ・ 事業内容 大型トラック・トレーラーを投資対象とする「トラックファンド®」の組成・販売・運用、同ファンドスキームを活用した車両のオペレーティングリース「R.リース®」を用いた、運送会社への経営改善のコンサルティングが主な事業。運送会社へ、新たな車両調達手段として「買う」から「借りる」へのビジネスの転換、財務体質の改善を促し、業界の発展に繋がる公共性の高いビジネスモデルとして注目を集めている。

この度の京都市交通局との契約を機に、公共事業の支援を本格化していく。